

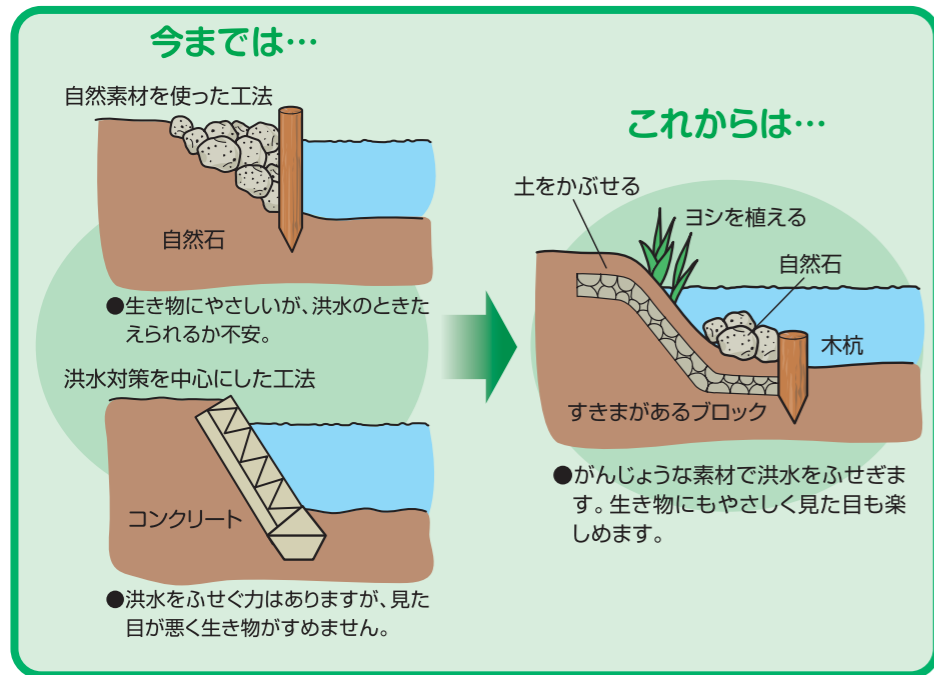
# 綾瀬川の自然を取り戻す



## 学習のねらい

- 綾瀬川の自然を取り戻すために行われている試みを学ぶ。
- 自然は、人間の努力によって再生することを理解する。

綾瀬川流域にも、ヨシ等の水生植物が見られる場所は残っています。野鳥や魚類の生息の場所として重要な水生植物など、自然の景観を保全していくとともに、護岸等により整備されている地域においても自然を取り戻すように努めています。



礮橋下流の中州  
自然に中州ができ、水鳥たちの生息する良い空間になっています。

## ●ラグーン

ラグーンとは、沼などの浅い場所のことを言います。綾瀬川では岸を少しだけ削って石を置き、その下に昆虫や、その幼虫が暮らせるようにしました。石のまわりは、小さい魚の隠れ場所にもなります。また、野鳥の休憩場所として木の杭を立てました。こうした場所は、水辺の生き物だけでなく、流域の方々が川とふれあえる場にもなっています。



埼玉県草加市に造られたラグーン

## ●ビオトープ

国土交通省では、八潮市大曾根地区においてビオトープの整備を実施しています。この地域は、綾瀬川下流部において唯一高水敷が形成されている地区であり、ヨシ原や池が見られる等、綾瀬川の中でも自然度の高い地域です。周辺の貴重な生態系や湿地帯の保全を図るとともに、綾瀬川の魚が池に自由に入出りできるように魚道などを整備しています。



空から見たビオトープ



大曾根ビオトープ

## ●ワンド



ワンドとは、本流沿いにできた小さな入り江のことを意味します。ワンドの中の水はとても緩やかで、魚類にとっては、幼魚の生育の場、台風など緊急時の避難場所になります。また弱い流れを好む生物の生息場所にもなります。



立合橋下流のワンド

大曾根地区では、魚介類、鳥類、植生類に関する調査を毎年行っています。平成16年度の調査では、ビオトープの整備後にほぼ定着した魚種として、新たに10種が確認されています。これら魚種は、純淡水魚が半分を占めますが、本川との魚道効果によって汽水魚も確認されるようになりました。池内が純淡水域の単純な種構成から多様な種構成に変化したと考えられます。

鳥類は、29種が確認され、ヨシ原では冬季にオオジュリン、夏季にオオヨシキリが多く、その他、春から夏にはツバメ、キジバト、冬季にはツグミなども見られました。池では、春季にバン、冬季にはカワウ、カルガモ、ホシハジロ等のカモ類が多く確認されています。



住民との協働による調査

